

SIRIUS THE MOVIE IN RACE AGAINST TIMELINE FOR FALSE FLAG “ALIEN INVASION”

[Dr. Greer's Blog](#)

Published July 2, 2012

映画シリウスの公開を目前に “エイリアンの侵略” か？

[グリア博士のブログ](#)

2012 年 7 月 2 日発表

スティーブン・M・グリア

この数週間、不安を煽る主流メディア（MSM）の報道各社が、‘エイリアンの侵略’にどう対処すべきかという、馬鹿げたよそ者嫌いの記事を集めている。

英国では、元国防省職員のニック・ポープが、このことを大々的に発言している - この‘戦い’に参加しようとする国はどこであれ、ヒトラーと戦うことを拒んだ者たちと同様の腰抜けだ。FOX ニュースの番組レッド・アイ（Red Eye）は、次の設問で世論調査を特集した：‘エイリアンの侵略’にうまく対処できるのは、ロムニーとオバマのどちらか？

この数ヶ月間、排外的なエイリアンの侵略映画やビデオゲームが、数え切れないほど出現した - すべてが、獲物を求めてうろつき回る恐ろしい‘エイリアン’から、我々の祖国地球を軍事的に防衛する、人類の団結を隠れた主題にしている。

私は 1990 年代の初期から、このシナリオについて警告してきた：軍事主義者たちと秘密の諸計画が、軍事／産業／金融の寡頭権力を一層強固にするため、いつかの時点でエイリアンの侵略カードを使うだろう。他ならぬウェルナー・フォン・ブラウンが、次のように警告したのだ - 冷戦が終わり、世界的規模のテロリズムが終わると - エイリアンの侵略という大嘘が、人々に押しつけられるだろう。

我々は、この狂気の最後のカウントダウンにいるようだ。

1980 年代の後半より、このようなシナリオ情報 - また誘拐、動物切断、およびその類の嘘をでっち上げる、闇の準軍事的グループを立証する情報 - を携えて現れるどの研究者も、メディアにより、また皮肉なことに UFO サブカルチャーにより、ブラックリストに載せられている。その理由が、まさに上に述べたことである。

しかし、わずかな事実を考えてみればよい：前世紀に人類は、組織的戦争行為により少なくとも 1 億 5 千万、おそらくは 2 億人を超える同胞を殺戮した。これは、どこか他の惑星の全人口にも匹敵する。そしてこの数には、戦争以外の殺人は含まれていないのである。

人類は大量破壊兵器（WMD）を所持しており、それはたった一度の撃ち合いで、地球上の全生命を滅ぼすことができる。この兵器群のために、数十年間に数兆ドルが使われてきた。一方では、数十億の人々が飢え、教育も受けられず、予防可能な病気で命を落としている。

これらの事実にもかかわらず、主流メディアは今我々の目を、この仮想的な‘エイリアンの脅威’に向けさせたいと思っている。なぜか？ 我々の目を、間近に迫った本当の課題からそらすためか？ 秘密の公開（disclosure）、新エネルギー（new energy）、平和的なコンタクト（peaceful contact） - 我々の注意が向けられなければならないものはこれであり、エイリアンの侵略という空想ではない。

ET たちは、核の時代が始まってから顕著に姿を現すようになった。これは証明することができる（公開プロジェクト www.DisclosureProject.org を見よ）。また、何らかの形のコンタクトも、人類史の黎明期から存在してきた可能性が高い。

もし ET たちがそれほど恐ろしく、敵意を持つものならば、なぜ彼らは地球が数万発もの核兵器で武装した陣地になるまで、地球の強奪を待とうと思ったのか？

それはまったく馬鹿げている - 道理の分かる人なら、誰でも知っていることだ。

さらに、恒星間他次元旅行（trans-dimensional interstellar travel）を可能にする技術的能力を考えると、‘もし’これらの ET たち - どの種族であれ - がそれほどに侵略したかったならば、地球は何十年も前に征服されるか、破壊されていただろう。

さらに付け加えると、闇の軍事プロジェクトが ET 宇宙機を追跡し、標的にし、時々ではあるが破壊してきたという、多くの証拠がある。この事実を考えるならば、侵略者とされているこれらの ET たちによる、大規模かつ圧倒的な報復がこれまでになかったのは、なぜか？

この主題を事実とするサイエンス・フィクションの陳腐な考えとは違い、他次元技術が兵器に用いるどのような戦争も、当事者のすべてを蒸発させ、別次元に飛ばすまでに、約十億分の 1 秒しかかからないだろう。もし、核兵器の行きつく先が地球規模の相互確証破壊（MAD）だとするなら、恒星間他次元兵器の使用がもたらす結末は、さらにどれほどのものになるのか。

排外主義者たちは、どういうわけか、こう言う：地球上には鉱物、生命体、生体材料が豊富にあるため、これらの侵略者たちはその誘惑に打ち勝てないのだと。本当か？ 宇宙には、地球に似ていて、まだそれほど発達もせず、暴力的文明も持たない世界が、無数に散らばっているのである。人々の間違いは、宇宙の中の我々の小さな場所だけが、このよ

うに豊かな生物や鉱物資源を持っていると思込んでいることである。

要するに、諸事実をどのように公平に分析してみても、このような宇宙に向けた武力誇示の理由は、一つしかない：人々を怖がらせ、萎縮させ、服従させる；世界を平和的に統合するのではなく、地球規模の軍事主義という、不安から生まれた恐怖の新世界秩序（new world order）で統一する。その願いは、いま一度繰り返すと、人々が身の安全を買うために、自由を放棄することである。

我々が再び騙されることのないよう、願うばかりである。

以上の理由により、我々は映画シリウスの制作と公開を急ぐ必要がある。どうか、シリウス・プロジェクト（Sirius.Neverendinglight.com）をご支援いただきたい。

（訳：廣瀬 保雄）